



平成23年度 ブラジル通信  
1月21日(土)~1月27日(金)  
No. 20【ファイナル】  
発行者:宮本 朋子

## パラナ州教育局各部署との情報交換

パラナ州教育局における6つの部署を訪問し、情報交換をしました。そこで、特に印象が強かった2つの部署を紹介します。

### 【DITEC (テクノロジー局)】

DITECは、情報に関する仕事をする部署で、4つのコーディネーター局があります。HPのサイトでラジオを流したり、イラストやマンガを制作したりするメディア局、朝、昼、晩の3回放送しているパウロ・フリーリーテレビ局、研修資料や教材が活用できる教育サイト局、情報処理に関する教員研修や学校支援をするテクノロジー支援局があります。その中で、パラナ州の学校を訪問して、学校のイベントや生徒が行っている活動を紹介する番組と、身近な問題を取り上げた短編アニメの番組が、とても興味深かったです。これは、インターネットサイトでも見ることができるそうで、環境や人権教育、道徳性や社会性などの育成に役立つものだと思います。また、今年から、生徒とコミュニティを対象としたサイトも立ち上げるそうで、ブラジルの子どもたちだけでなく、日本から帰国した子どもたちも相談できるコーナーを開設してほしいとお願いしました。

### 【SUDE (教育発展局)】

SUDEは、食品の安全管理や児童生徒の健康管理を行う部署です。年に1回健康診断(身長、体重測定)を実施し、子どもたちの健康調査を行っています。その調査結果は、教育局のHPに掲載されており、学校給食のメニュー作成においても参考にしているそうです。学校で作られる食事は、主に無農薬野菜を使用しており、家族経営の農家が所属する協同組合と連携しながら、バランスの良い食事を提供しています。しかしながら、今まで訪問した学校の様子を振り返ってみると、嫌いなものを食べずに残している児童生徒が多いように感じました。食材にこだわり、栄養バランスを考えたメニューなので、食に関する教育をもっと進めていくべきだと思います。また、今後は、州の職員や大人や青年が通う学校においても健康診断を実施し、健康管理を行っていきたいそうです。

5ヶ月間お付き合い下さり、ありがとうございました。



DEIN (特殊及び包括教育課) では、障がいをもった人と一緒に働いています

ニーズに合わせてイラストを制作



番組用の手話撮影

制作にかかる期間は1~2ヶ月

## パラナ州教育局での発表

パラナ州教育局で、日本の教育制度と豊橋の学校を紹介しました。休み期間にもかかわらず、約50人の職員が参加してくれました。発表後の質疑応答では、受験制度や家庭との関係、評価方法、不登校や自殺について、障がいをもった子への指導、日本にいるブラジル人の特徴など、様々な質問を受けました。発表は1時間の予定でしたが、30分延長しても質問が途切れず、日本の教育への関心がとても高いように感じました。私にとっても職員の方の考えを知ることができ、貴重な経験となりました。

パワーポイントを使って発表しました



# ENCCEJA : 学力認定テスト

日本で教育を受けた人は、ブラジルに帰国後、ブラジル教育の修了認定がなければ、高等学校や大学進学ができず、良い職につくこともできません。そこで、1990年から始まった、外国で教育を受けた人を対象とした学力認定テスト（ENCCEJA）について、話を聞いてきました。

このテストは、日本でも受けることができ、ブラジル教育の認定テストとなっています。それぞれの受験資格は、1～9年生レベルは15歳以上、高校レベルは18歳以上で、各分野ごとテストを受けることができます（言語、数学、人間科学、自然科学の4分野）。テストが始まった当初は、志願者数約400人でしたが、リーマンショック後は増加傾向にあり、現在は毎年約2000人の人が申し込んでいるそうです。しかし、実際受験をする人は、そのうちの45%程度で、各分野の合格者数は、20%ほどしかいないそうです。もちろん、帰国後も受験することができますが、国内におけるENCCEJAは1～9年生レベルのみとなり、高校レベルは、ENENという別のテストになります。このテストは、学校で全く学習したことのない人も受けられるテストで、今では大学の入学試験を受けなくても、ENENの結果によって入学できるようになってきており、高校に通っている生徒の受験も増えてきているそうです。出稼ぎ労働者や留年を繰り返している人、教育を受けていない人にとって、学歴を保障する大切な制度となっています。



本から青年・成人に対する教育プログラムの担当のオタビオさんと情報局の英治さん

## インディオ村の学校訪問

インディオとは、ブラジルの原住民のことです。パラナ州にいるインディオの種族は、グアラニー、カインガンギ、シェタの3種族で、それぞれの言葉話し、伝統文化を守って生活しています。

その中で、一番伝統を守り続けているというグアラニーの学校を訪問しました。この学校では、午前6～9年生、午後1～5年生の授業が行われています。学習内容は基本的には同じですが、原住民の言語を失わないよう、1・2年生はグアラニー語を学習し、3年生からポルトガル語を勉強していくそうです。そのため、1～5年生の先生は、グアラニー語が話せないといけなため、村民の中から選抜されます（6～9年生の先生は、外部の志願者の中から村民が話し合っ決めてます）。また、高校・大学卒業資格や教員免許が取得できるよう、州や連邦の大学で、インディオコースを作って対応しているそうです。その際、長期間村を離れることができないため、15日間学校で勉強した後、1ヶ月村で過ごし、また15日間学校で勉強…を繰り返すそうで、それにかかる費用は、全て州や国が負担しているのです。現在パラナ州にいるグアラニーの子どもたちは、885人です。大切な伝統文化を守っていくためには、州や国のサポートが不可欠だと思いました。



ダンビャーアランドウ州立学校 (グアラニー語で「グアラニーの知恵」という意味)

村に1つしかない携帯電話



板張りの教室

床がキシキシして抜けそうです

グアラニー語で書かれています



祈禱の部屋

歌ったり踊ったりしてお祈りをします



民芸品を作って売っています



校長先生

教育局とグアラニーの人と

# 日系人親子との面談

日本に出稼ぎに行っていた4組の親子と面談しました。



柴田親子



灘吉親子



佐藤親子



三浦親子



夏貴君が描いた絵

保護者	柴田さん（母34歳）	灘吉さん（母39歳）	佐藤さん（母36歳）	三浦さん（母48歳）
出稼ぎ経歴	・15年日本で働き、途中2年間子どもだけ帰国。	・13年日本で働き、一度も帰国しなかった。	・11年日本で働き、途中一時帰国。	・12年日本で働く。
出稼ぎ場所	長野県 (2011年1月帰国)	愛知県岡崎市 (2010年10月帰国)	三重県伊賀市 (2010年帰国)	三重→栃木→千葉→静岡 (2005年帰国)
子ども	ユリ(女10歳:日本生まれ) 私立学校の新5年生	カウエ(男11歳:日本生まれ) 州立学校の新5年生	アケミ(女15歳) 州立学校の新高校1年生	夏貴(男16歳:日本生まれ) 私立学校の新高校2年生
日本での生活	・日本の保育園に通い、5歳の時に一時帰国。その後、再び日本に渡り、6歳からブラジル人学校へ。しかし、リーマンショックで大勢帰国したことで、違う年齢の子と一緒に勉強しなくてはならなかったため、帰国する約1年前に日本の学校へ転校。通訳がついて日本語の補習をしてくれた。	・日本の保育園、小学校に通い、日本語を話していた。そのため、とても丁寧な日本語を話すことができる。 ・家では、ポルトガル語。帰国する2ヶ月前からポルトガル語教室に通った。	・4歳の時に日本へ行き、日本の保育園、小学校に通う。当時は、毎日泣いて過ごしていた。学校には、ブラジル人が1人しかいなかったが、通訳をつけてくれた。その後、小学4年の時帰国。午前1年生、午後2年生と一緒に1年間学習。再び、日本へ行き、ブラジル人学校に入る。	・日本の保育園、小学校に通い、日本語を話していた。家では、父スペイン語、母ポルトガル語、本人は日本語を使っていた。 ・帰国する3か月前からポルトガル語教室に通った。
帰国後の生活	・9歳の時、帰国。 ・両国の学校を経験しているため、問題なく適応できた。日本での学習習慣が身についていたため、今では成績優秀。	・9歳の時、帰国。 ・ポルトガル語は話せたが、読み書きができなかったため、1つ下の学年に入る。公文でポルトガル語を学習中。	・12歳の時、帰国。 ・一時帰国の時、他の学年に入って学習するのは、少し大変だった。 ・2回目の帰国の時は、問題なく適応できた。	・10歳の時、帰国。 ・学校側の支援はなく、テストは全くできず。慣れるのに3年かかり、その間1年留年。補習塾でポルトガル語を勉強した。
今後について	・日本語を少し忘れてきたため、日本語学校へ通いたい。	・私立学校に通っていたが、遠く、授業料も高かったため、近くの州立学校に今年転校。公文で日本語も習いたい。	・日本が大好きで、将来は日本語の先生かPC関係の仕事に就きたい。現在、私立の専門コース(塾)でも学習中。	・日本語の話せる友達が多い。 ・漫画が大好きで、将来は、絵に関係する仕事に就きたい。

4人に共通していたことは、帰国後の学習において、歴史やポルトガル語、作文が難しく、算数はとても簡単だったそうです。また、在籍する学校によって対応も様々で、学校の選び方次第で、子どもたちのその後の生活に大きく影響を与えているようでした。ブラジルの学校は2月スタートのため、無理して途中から学校には入れず、学習塾などで事前にポルトガル語を勉強させるのも1つの方法だとの意見もありました。彼らは、日本とブラジル、両方の教育を受けた貴重な存在なので、両国の言葉や文化を大切にしながら、今後も自分の目標に向かって、一歩ずつ歩み続けていってほしいです。



## ぶらっとブラジルク・イ・ス♪

公衆トイレを利用した時、入り口に回転レバーが設置してあり、押して入らなければなりません。これは、一体何のためにあるのでしょうか？

- ①使用料を払うため
- ②使用者数を数えるため
- ③人数調整をして混雑を避けるため



トイレの入り口に回転レバー？

答え：①（ブラジルの公衆トイレは、一部有料のところがあります。場所によって異なりますが、クリチバ市内のある施設ではR\$0.5、リオのバスターミナルではR\$1.5でした。また、ブラジルでは、使用済みのトイレットペーパーを便器に流してはいけません。それは、トイレが詰まってしまうからだそうです。トイレの横には、必ず専用のゴミ箱があり、そこに捨てるようになっているのです。）